

機関番号：14301

研究種目：基盤研究 A

研究期間：2007 年度～2010 年度

課題番号：19251005

研究課題名（和文）東南アジアの「非伝統的安全保障」－国家の対処能力と地域協力体制の現状と課題

研究課題名（英文） Non Traditional Security Issues in Southeast Asia -The status and issues in State capacity and Regional Cooperation

研究代表者 Abinales PN

（京都大学・東南アジア研究所・教授）

研究者番号：60314267

研究成果の概要（和文）：冷戦終結後のグローバル化の進展で、国境を越える人・モノ・カネ・情報などの流れが劇的に増加し、その負の側面である、越境犯罪や違法移民、環境問題、感染症などの諸問題が、地域や国家、社会の安定と安全を脅かしているという認識から、これらの問題を安全保障の対象とする「非伝統的安全保障」という概念が生まれた。本研究が対象とした東南アジア地域は、こうした「越境する脅威」への対処能力が十分でない国もいまだに存在し、何らかの対策が急がれている。本研究では東南アジアにおける「非伝統的安全保障」問題について、越境犯罪や人身売買、感染症、違法伐採などを事例として研究をおこなった。その結果、「越境する脅威」を「安全保障化」することにより、問題解決のために国家の対処能力の向上や地域協力の重要性が認識されるようになり、それまで脆弱な立場に置かれていた人々の安全が守られるようになる可能性がある一方で、過度に「安全保障化」されることで、逆に人権侵害や環境破壊などが進展する危険性があること、さらに「非伝統的安全保障」という言説を巧みに利用して、自己の権益を拡大しようとする集団がいることなどが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：After the end of the Cold War, the globalization has drastically accelerated the trans-border transaction of people, goods, money and information. With this acceleration, the trans-border problems such as trans-border crimes, illegal migration, environmental problems, and infectious diseases have been recognized as those endangering the state and society and the regional community. The new concept of “Non-traditional Security” was born in this context in order to securitize the above trans-border problems. Southeast Asia with some low-capable states is facing serious challenges of these new security issues. Our research dealt with the trans-border crimes, human trafficking, infectious diseases and illegal logging in this area and found out the following points. With the “securitization” of trans-border threats, the states have been required to raise their capability to deal with these issues and tackle with them in the regional cooperation framework. This change is positive in a sense that the states are now required to secure those in the fragile positions from the trans-border threats. There has also emerged a possibility that the “over-“securitization of the threats has become the reasons to violate the human rights and accelerate the environmental destruction. And some state and social agencies and organizations have shrewdly obtained or aggrandized the politico-economic stakes by securitizing some issues.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	6,300,000	1,890,000	8,190,000
2008 年度	5,600,000	1,680,000	7,280,000
2009 年度	6,100,000	1,830,000	7,930,000
2010 年度	6,200,000	1,860,000	8,060,000
年度			
総計	24,200,000	7,260,000	31,460,000

研究分野：社会科学 A

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：非伝統的安全保障、東南アジア、地域研究、越境犯罪、地域協力

1. 研究開始当初の背景

冷戦終結後のグローバル化の進展に伴い、国境を越える人・モノ・カネ・情報の流れが劇的に増加し、地域や国家、社会の在り方が変化してきている。そして、人・モノ・カネ・情報などの流動性の増大が引き起こす負の側面として、越境犯罪、違法移民、環境破壊、感染症、資源枯渇などがある。これらの国境を越えて国家や社会の安定を脅かす諸問題を、国際関係論や安全保障研究の分野では、従来の軍事的脅威とは異なる新たな「脅威」として安全保障化し、「非伝統的安全保障」という枠組みで研究が行われている。しかし、この国際関係論や安全保障の専門家による「非伝統的安全保障」研究は、理論研究に終始し、実際に現場で生じている事態から乖離しがちである。本来、地域や国家、社会に大きな影響を与えるこれらの国境を越えて広がる諸問題は、地域の実情に精通している地域研究者こそが、最も効果的に分析できるはずである。このような問題意識に立ち、本研究計画を立案した。

2. 研究の目的

上記の1で記したような背景から、本研究においては、東南アジア諸国の地域研究専門家が研究代表者、分担者、連携研究者となり、現地の情報をもとに問題点を的確に把握し、その上で地域間協力を視野に入れた解決の処方箋を4年間の研究で提示することを目的とした。

3. 研究の方法

基本的には、年度の初めと終わりに定期会合を持ち、各研究者が毎年度、最低一度は現地調査を行うという形をとった。そして、本研究の終了する一年前に国際ワークショップを開催して、研究代表者、分担者、連携研究者が最終成果となる編著本のための原稿を準備して、それを発表した。また、2010年6月には比較政治学会全国大会において、研究代表者、分担者からなる自由企画5：「東南アジアにおける非伝統的安全保障問題」というセッションを組んで発表を行った。

4. 研究成果

研究の結果、東南アジアの非伝統的安全保障問題について、大きく次の三つの視点が重要であることが明らかになった。まず、伝統的安全保障の下では切り捨てられてきた問題が、非伝統的安全保障問題として「安全保

障化」されることにより、国家や地域が取り組むべき課題として認識されつつあることである。例えば、辺境地の難民や感染症などの問題が安全保障化されることにより、国家や地域が重点的に取り組むべき課題となり、解決への取り組みが始まっている。ここで重要なことは、非伝統的安全保障が対象とする国境を超える脅威の多くは、地域や国家、社会の様々な側面に影響を与えるものであり、決して単一の観点や方法論だけでは解決できず、さまざまな分野の専門家が協力して取り組むべき課題であること、そして国家の対処能力を向上させるだけではなく、地域の枠組みでの協力体制の構築が不可欠なことである。また誰の、どのような安全が脅威にさらされており、その是正のためにはどのような形で安全保障化すべきであるのか（もしくはしない方がよいのか）、という視点を忘れないことも必要である。そしてこのような取り組みには、現場の知見に精通している地域研究の専門家からのインプットが不可欠である。

二点目に、「安全保障化」しようとしている主体が誰であり、どのような形でしようとしているのかに着目する必要性である。麻薬問題を例にとると、若年齢層にも常習者が増え、人道的観点から安全保障上の課題とする国が東南アジアの中にも出てきている。しかしこの「安全保障化」により、タクシン政権下のタイの場合、麻薬撲滅の名のもとでタクシンは自らに敵対的な地方の有力者を弱体化させたり、懐柔したりすることに成功するだけではなく、軍が握ってきた麻薬の流通ルートをタクシンに近い警察が奪うことに成功したと言われている。或いは、インドネシアの場合、新たに創設された国家麻薬庁が、麻薬撲滅のスローガンの下、巧みに権限増大、予算拡大に成功した。言わば、グローバルに通用する非伝統的安全保障という言葉を利用して、自己の権益拡大というアジェンダを実現したるのである。こうした「安全保障化」が作り出す負の側面は、理論研究を中心とする国際関係論や安全保障研究よりも、地域研究の視点からこそ見えてきたものである。

三点目は、ある問題が非伝統的安全保障上の課題になることで、意図せざる問題が発生していることである。たとえば、インドネシアでは、エネルギー安全保障の実現を一つの正当化事由として、アブラヤシ農園拡大が見られている。しかしその結果、慣習地や生物

多様性の消滅などが生じている。また、違法移民の問題が非伝統的安全保障上の課題となったことで、入国管理が強化された結果、特定の外国籍者や民族の入国を厳しくするという人権侵害がまかり通るといふことが起きている。

以上の視点を踏まえ、最終成果物として現在、東南アジアの非伝統的安全保障に関する編著を編集集中であり、今年度中の出版を目指している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 59 件)

- ①細田 尚美、「海外就労先を開拓し続けるフィリピン」安里和晃(編)『労働鎖国ニッポンの崩壊—人口減少社会の担い手はだれか』、ダイヤモンド社、2011年、197-213頁。
- ②Nakanishi Yoshihiro, "Myanmar Migrant Laborers in Ranong, Thailand" (with FUJITA Koichi, ENDO Tamaki, OKAMOTO Ikuko, YAMADA Miwa,) 査読無、IDE Discussion Paper No. 257, 2010.
- ③白石 隆、「アジアと向き合う日本外交を考える」、『外交』2010年01創刊号、2010年、42-51頁
- ④Siraishi Takashi and Caroline Hau, "Only Yesterday: China, Japan and the Transformation of East Asia," Zheng Yangwen, Hong Liu, and Michael Szonyi eds., *The Cold War in Asia: the Battle for Hearts and Minds* (New York: Brill), 2010, pp. 25-38.
- ⑤Abinales, PN., *The U.S. Army as an Occupying Force in Muslim Mindanao, 1899-1913, Colonial Crucible: Empire in the Making of the Modern American State*, ed. Alfred W. McCoy and Francisco A. Scarano (Madison, Wisconsin: University of Wisconsin Press), 2009, pp. 410-420.
- ⑥細田 尚美、「ドバイ在住のフィリピン人の生存戦略」、『UAE』、2009、25-28頁。
- ⑦本名 純、「インドネシアにおける「犯罪との戦い」—非国家主体の暴力をめぐる治安機構の政治」、日本比較政治学会編『年報政治学 2009-II 政治における暴力』木鐸社、2009、70-86頁。
- ⑧鬼丸 武士、「新型インフルエンザ対策—何をなすべきか」『外交フォーラム』2008年10月号、2008、54-56頁。
- ⑨本名 純、「マフィア・国家・安全保障—東南アジアにおける越境犯罪の政治分析」『国際政治』149号、2008、127-140頁。
- ⑩白石 隆、「国境を超える脅威にどう立ち向かうのか」『外交フォーラム』2008年10月号、査読無、46-47頁

- ⑪ Abinales, PN. "Mindanao in the Development Fantasy of the Philippines State: Kinaadman, *Journal of Southern Philippines*. Vol. 29. 査読有, pp. 23-45. 2007

〔学会発表〕(計 73 件)

- ①Okamoto, Masaaki, "The Political Economy of Oil Palm Plantation: Expansion Policy in Indonesia and Its Justification, The 34th Southeast Asia Seminar on New Concept Building for Sustainable Humanosphere and Society from the Equatorial Zone of Southeast Asia, 2010. 9. 22, Indonesian Institute of Sciences.
- ②Honna Jun, "Assessing the Role of Civil Society in Anti-Trafficking Counter-Measures in Southeast Asia, Jakarta Workshop: Strengthening Nongovernmental Contributions to Regional Security Cooperation, 2010. 8. 3-4, CSIS Jakarta.
- ③パトリシオ・アビナーレス、「Pestilence and Politics in Post-war Philippines」鬼丸 武士「非伝統的安全保障問題としての感染症」本名 純、「「麻薬との戦い」という政治プロジェクト—インドネシアの例—」上記3発表とも、2010年度比較政治学会全国大会・自由企画5「東南アジアにおける非伝統的安全保障問題」、2010年6月19日における発表。
- ④Abinales. PN. 「非伝統的安全保障なのか伝統的安全保障なのか?—第2次世界大戦後、フィリピンにおけるネズミと政治」相沢 伸広、「東南アジアにおける人身取引拠点の盛衰—バタム、サダオー」中西 嘉宏、「ミャンマーから遠く離れて—東南アジアにおける難民と非伝統的安全保障—」細田 尚美、「合法/違法、正当/不当の間で: アラブ首長国連邦で働くフィリピン出稼ぎ移民」岡本 正明、「アブラヤシ・プランテーションの拡大政策とその正当化のロジック」、本名 純、「安全保障化された「麻薬との戦い」の諸問題: インドネシアの事例から」鬼丸 武士、「非伝統的安全保障問題としての感染症: インフルエンザ対策を事例に」河野 元子、「南シナ海の資源をめぐるポリティック—漁民はなぜゾーンを越えるのか?」鈴木 伸二、「違法伐採の流体力学」上記7発表とも、政策研究大学院大学 GCOE 「東アジアの開発経験と国家建設の適応可能性」ワークショップ「アジアにおける

非伝統的安全保障問題」、2010年3月20日

- ⑤ Onimaru Takeshi, “Infectious Diseases as Security Issues - Current Situation and Problems in Southeast Asia-”, International Conference on Institution Building in Asia for Peace and Development: Workshop “Global Economic Crisis and Institution Building in East Asia for Peace and Development”, 2009. 8. 29, JICA-Research Institute.
- ⑥ Abinales, PN., “Rodents, Pestilence and Politics in Postwar Philippines”, The First KASEAS/CSEAS Joint International Symposium, Interdependency of Korea, Japan and Southeast Asia: the Migration, Investment, and Cultural Flow, 2009. 6. 20, 韓国・晋州大学
- ⑦ Honna Jun, “Global Crime, Regional Security, and Domestic Politics: ‘War on Drugs’ in Indonesia”, 1st Joint Symposium of Korean Association of Southeast Asian Studies (KASEAS) and Center for Southeast Asian Studies (CSEAS), Kyoto University, 2009. 6. 20, 韓国・晋州大学
- ⑧ Honna Jun, “Crime at Sea and Human Insecurity in Southeast Asia: Toward a New Paradigm of Maritime Security Cooperation”, International Symposium on Human Security in ASEAN Integration, 2009. 3. 30, JICA Research Institute.
- ⑨ 本名純、「東アジアにおける越境犯罪に対する日台海上保安協力の重要性」、第2回日台周辺海域における海上保安フォーラム、2007年11月29日、福華国際文教会館、台湾。
- ⑩ Abinales, PN., “When ‘Baby’ Kills: Violence in a Golden Ghetto. JSPS-Core University Program. 2007. 11. 7, Chulalongkorn University.

[図書] (計4件)

- ① Abinales, PN. ed., Revisiting Marxism in the Philippines, Anvil Publishing, 2010, 131p.
- ② Abinales PN. ed., Orthodoxy and History in the Muslim Mindanao Narrative, Ateneo de Manila University Press, 2010, 300p.
- ③ Ota Atsushi, Okamoto Masaaki and Ahmad Suaedy eds. Islam in Contention: The Rethinking of Islam and State in Indonesia, 2010, x+468p.
- ④ 本名純「マフィアたちの東アジア共同体？

—非伝統的安全保障問題としての越境犯罪』『アジアの課題と日本』NIRAモノグラフシリーズ、総合研究開発機構2008年3月。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

パトリシオ アビナレス

(京都大学・東南アジア研究所・教授)

研究者番号：60314267

(2) 研究分担者

白石 隆

(政策研究大学院大学・政策研究科・教授)

研究者番号：40092241

本名 純

(立命館大学・国際関係学部・教授)

研究者番号：30283659

岡本 正明

(京都大学・東南アジア研究所・准教授)

研究者番号：90372549

鬼丸 武士

(政策研究大学院大学・政策研究科・助教)

研究者番号：80402824

相沢 伸広

(アジア経済研究所・東南アジア II グループ・研究員)

研究者番号：10432080

中西 嘉宏

(アジア経済研究所・地域研究センター・研究員)

研究者番号：80452366

細田 尚美

(香川大学・インターナショナルオフィス・講師)

研究者番号：70452290

(3) 連携研究者

鈴木 伸二

(近畿大学・総合社会学部・講師)

研究者番号：10423013

久末 亮一

(政策研究大学院大学・政策研究科・研究助手)

研究者番号：60422383

河野 元子

(政策研究大学院大学・政策研究科・ポストドクトリアルフェロー)

研究者番号：80552017